兵庫県立芸術文化センター「ジルヴェスター・ガラ・コンサート 2026」関連企画

アウトリーチ・プログラム

～ファビアン・ヨハネス・エッガーを迎えて～

実施報告書

【実施日】　2026 年 10 月 27 日(火)　(リハーサル：10 月 26 日(月))

【ゲスト】　ファビアン・ヨハネス・エッガー（フルート奏者）

【連　携】　神戸女学院大学音楽学部アウトリーチ・センター（兵庫県西宮市）稲本渡准教授
兵庫県立西宮高等学校音楽科（同）佐藤裕美子主幹教諭
わくわくフルート・サークル（兵庫県三田市）主宰：小中公平さん

【協　力】　公益財団法人神戸市民文化振興財団（神戸国際フルートコンクール運営事務局）
安藤史子さん（フルート奏者）、赤埴尚子さん（フルート奏者、ドイツ語通訳）

【助　成】　一般財団法人地域創造（地域の文化・芸術活動助成事業創造プログラム）

【報告者】　兵庫県立芸術文化センター 事業部

■ 趣旨

兵庫県立芸術文化センターでは、2026 年 12 月 31 日開催「ジルヴェスター・ガラ・コンサート 2026」に出演するファビアン・ヨハネス・エッガー氏（フルート／2025 年、第 11 回神戸国際フルートコンクール第 1 位）の協力を得て、公演に先立つ 2026 年 10 月 27 日に、同氏と共に当センターを飛び出し、３か所を訪問するアウトリーチ活動を行いました。

西宮市を中心に近隣地域の教育機関や音楽愛好有志グループを訪問し、各提携先との関係を強化して相互の活性化を図ると共に、地域で芸術文化への関心を高め、音楽を通じて交流することを企図しました。

企画にあたっては、コンクール優勝者でありながら 19 歳で、今回がコンクール後初来日となるエッガー氏の特質を考慮し、単に演奏披露や技術指導を行うのではなく、世界的アーティストと等身大の交流を行うことを念頭に置きました。その上で、各提携先と共同で、訪問先に応じたプログラムを作成しました。





【訪問先】１西宮市立鳴尾東幼稚園、２兵庫県立西宮高等学校音楽科、３わくわくフルート・サークル

■ プログラム内容

プログラム１　神戸女学院大学音楽学部アウトリーチ・センター（会場：西宮市立鳴尾東幼稚園）

【時間】 10:00～11:10
【対象】 園児（幼稚園・保育所）および小学生 約 50 名、保護者、教員、地域住民など計約 80 名

同大学アウトリーチ・センターのコーディネートにより、音楽学部の学生 8 名とエッガー氏が幼稚園を訪れてミニ・コンサートを開催しました。

前日のリハーサルでは、学生たちとエッガー氏が練習を通じて直接交流しました。
当日は、楽器紹介に続き、合奏による「にじ」、「夢をかなえてドラえもん」、フルート独奏によるサン＝サーンス作曲「動物の謝肉祭」やフェルー作曲「翡翠」（独奏：エッガー氏）、振りを交えた手遊び歌「やきいもグーチーパー」、ハチャトゥリアン作曲「仮面舞踏会」など、子供たちの心を掴むプログラムで、会場は大いに盛り上がりました。

幼稚園児だけでなく、近隣の保育園児や小学生、保護者、教職員、近隣住民が広く参加し、地域コミュニティ全体で歓迎を受けました。終了後には出演者と子供たちが触れあう機会もありました。



訪問前日は神戸女学院大学でリハーサルを実施。



ソロ演奏に聴き入る園児たち。





「やきいもグーチーパー」ではエッガー氏も手遊びに参加。終了後は園児らとハイタッチするなど交流。

プログラム２　兵庫県立西宮高等学校音楽科（会場：同高校講堂）

【時間】 13:20～15:30
【対象】 音楽科生徒（113 名）、教職員

当センターから至近にあって県内で唯一音楽科を擁し、著名な演奏家を多数輩出している同校を訪問しました。専門性の高い生徒たち（15～18 歳）とのコラボレーションを企図し、音楽づくりのプロセスを共有することで、同世代の若者同士が等身大の交流を図る機会を創出しました。

前半（5 限目）は、フルート専攻生 10 名との合奏（ベルトミュー作曲「フルート四重奏曲 アルカディ」）や音楽科 3 年次生全員が参加する合唱（エッガー氏との共演による「日本の歌メドレー」）の「練習時間」としました。「日本の歌メドレー」では、作曲専攻の生徒が既存の合唱曲にフルート独奏のオブリガート（助奏）を付けて、生徒全員とエッガー氏が共演することを試みました。

後半（6 限目）は「本番」を想定。全音楽科生徒を前に、前半に練習した「フルート四重奏曲」、合唱とフルート独奏の共演による「日本の歌メドレー」が実現しました。全音楽科生徒と向き合った質疑応答では、人生の困難やその克服方法、音楽家としての生き方、緊張との付き合い方、など、多くの生徒が自らの英語で質問を投げかけ、エッガー氏が丁寧に応えました。最後は作曲家としても活動するエッガー氏の自作曲をソロ演奏し、圧巻の演奏に魅了されました。




フルート専攻の学生 10 名と合奏のリハーサル。生徒からの質問にエッガー氏がアドバイスする場面も。




質疑応答では、生徒が積極的に質問。　3 年生の合唱にエッガー氏がオブリガードで参加して共演。

プログラム３　わくわくフルート・サークル（会場：三田市立フラワータウン市民センター）

【時　間】 16:50～18:15
【対　象】 フルート愛好グループ「わくわくフルート・サークル」のメンバー
（小学生～大学生 約 20 名）、保護者、関係者

西宮市の北方に位置する三田市を拠点に活動するフルート奏者・指揮者の小中公平氏が主宰する地域のフルート愛好サークル「わくわくフルート・サークル」が、三田市立フラワータウン市民センターのホールに集まった皆さんと共に迎えてくれました。

前日には、グループを牽引する大学生３名が芸術文化センターでエッガー氏と合同練習。フルートを学ぶ少年少女のグループとはいえ、今回は、コンクール優勝者を前に技術的な習得だけに特化するのではなく、同世代の若者としてファーストネームやあだ名で呼び合う人間関係づくりや国際的な異文化交流の大切さを志しました。

冒頭、自己紹介として演奏されたエッガー作曲「Leben ist nicht genug」に惹き込まれました。続けて、レクリエーションとして「じゃんけん列車」などのゲームを行い、小学生から大学生までの幅広い年齢層が瞬く間に意気投合。全員で音を繋いでいく「デュエット・リレー」では、音楽を通じた交流を楽しみました。ハイドン作曲「弦楽四重奏曲」やライヒャ作曲「フルート四重奏曲」、エッガー作曲「鳥の飛翔」や「クマノミ」を取り上げて、様々な組み合わせで合奏。メンバーの皆さんには、すぐそばでエッガー氏の息遣いや音を感じながら演奏する機会となりました。





挨拶代りのソロ演奏。「デュエット・リレー」ではメンバーの一人ひとりと合奏し、演奏後は握手で喜びを共有。




前日のリハーサルを経て、３名の大学生メンバーとの四重奏を披露。最後は全員で合奏。

■ まとめ

リハーサルを含めて丸 2 日間で、それぞれ異なる訪問先、プログラム、共演者により、3 か所を訪問するというハードスケジュールにも関わらず、事業趣旨を十分に理解し、積極的にご協力いただいたファビアン・ヨハネス・エッガー氏には、感謝の言葉しかみつかりません。終了後、「通常の公演活動で日本を訪れただけでは体験できない貴重な機会となりました」という言葉をいただき、エッガー氏の真摯な人間性に改めて感銘を受けました。

巷間では、アウトリーチという名目で定型的なマスタークラスやレッスンを提供する例もみられます。それはそれで貴重な機会ですが、今回は、神戸国際コンクール第 1 位受賞者でありながら、2007 年生まれの 19 歳、今回がコンクール後初来日というエッガー氏の特質を最大限に考慮し、特に若い世代との人間的な交流の機会とすることを志しました。各提携先、訪問先のご尽力により、概ね、期待された成果を上げたと言えるのではないかと思います。関係者の皆さまに深く感謝申し上げます。

エッガー氏は、12 月 31 日開催の「ジルヴェスター・ガラ・コンサート」で再来日する予定です。引き続き、氏の活躍にご期待ください。